



機関士

仕事と生活の調和のとれたエンジニアに

射手充代 (日本郵船株式会社 一等機関士)

仕事の内容とやりがい

私は外国と日本を結ぶ船の機関士です。船乗りと言うと操船をする船長(航海士)のイメージが強いですが、船には機関長(機関士)もいます。機関士は、船に搭載されている多種多様な機械すべてを掌握する、技術職としては極みの職業です。「壊れない機械はない」と言うように、定期的な整備だけでなく、修理時も陸上とは違ってすぐに部品が手に入らず、船内にある限られたもので緊急に対応しなくてはならないなど、応用力、技術力、判断力が求められます。そんな状況下、修理した機械が正常に戻った時が、一番うれしい瞬間です。

仕事と生活のバランス

船乗りの生活は、1年のうち2/3は船上で仕事および生活をしています。私は既婚者ですが、ほとんどいっしょに生活する時間が少ないので、同業者である夫との時間を大切にしています。仕事はエンジニアとして経験や知識を積む一方で、私が大事にしたいと考えているのがワークライフバランスです。ライフスタイルは変化し続けていますが、どのステージでも仕事、生活の両方を大事にし、将来的には「ママさんエンジニア」になりたいと考えています。

進路決定のきっかけ

将来は、「結婚や出産をしても、仕事を続けたい」という希望があったので、産前産後休暇や育児休暇を取得しやすい会社を探していました。当時の新聞で、「丸の内に託児所」という見出しを見て、日本郵船に興味を持ちました。産休・育児休暇や、社内託児所、フレックスタイムなどを活用し、女性だけでなく男性も育児に参加しやすい制度が整っているのです。今はこのような環境で、仕事と生活を調和させながら機関士として成長していきたいと考えています。

進路選択についてのメッセージ

日本郵船で働く日本人海上職は、約600人。そのうち、航海士6人、機関士4人の計10人の女性海上職が、海を舞台に働いています。「たった10人」と感じるかもしれませんが、船会社の中では女性比率が高い方なのです。私が入社した6年前には、女性機関士はいませんでした。女性が働く環境は日々大きく変化しています。今は女性がいない職場でも、これから先、採用が始まるかもしれません。常に新しい情報入手し、自分の希望やライフスタイルに合う会社を探してください。

海外留学・勤務を通じて得たこと・得したこと

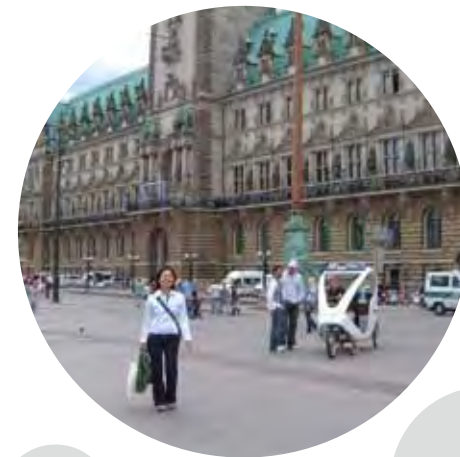
私の場合、海外勤務というよりは海上勤務ですが、コミュニケーション能力も仕事をする上で大事なスキルです。特に船ではフィリピン人、インドネシア人、インド人やルーマニア人など言語も文化も異なる外国人と一緒に働くので、国境を越えたコミュニケーションが生まれます。公用語は英語ですが、時にはお互いの母国語の単語を交えて話すこともあります。海上では、仕事だけでなく生活もともにすることになるので、お互いを理解し合い、明るい職場環境を作ることがとても重要なことなのです。

海外の女性研究者の活躍と位置づけについて感じたこと

大学院生の時には、スペイン、中国やオーストラリアで国際学会に参加しました。ある学会では同世代の大学生が集まっていましたが、非母国語にもかかわらず、他の国々の大学生は英語で意見を交換していました。私は自分の意見を上手に英語で話せず、英語力の弱さを痛感しました。これから、海外経験を希望される学生の方は、是非自分の専門分野の知識に加えて、英語のコミュニケーション能力も身につけてください。必ず自分にプラスになると思います。

滞在先の思い出・生活者としての体験

就職後、日本と欧州を結ぶコンテナ船に乗船していた時は、欧州側はイギリス、フランス、オランダやドイツに寄港していました。限られた時間の中で、各地の文化に触れて楽しんできました。目の不自由なフランスのご老人にフランス人だと勘違いされ、スーパーマーケットでつたないフランス語で会話をしたり、オランダがワールドカップでベスト4に入った時に、熱狂的なサッカーファンのおじさんから応援グッズ一式をもらったり。すっきりとリフレッシュして、色々な思い出もお土産に船に戻り、次の港へと安全運航に努めていました。



<射手充代(いみちよ)プロフィール>

- 1999年 千葉県立幕張総合高等学校卒業
- 2003年 東京商船大学商船学部商船システム工学課程機関士コース卒業及び乗船実習科修了
- 2005年 東京海洋大学 大学院海洋科学技術研究科海洋環境保全学専攻修了
- 2005年 日本郵船株式会社入社
- 2010年 結婚
- これまで、欧州航路のコンテナ船やカタールやオーストラリア航路などLNG船の乗船経験を持つ。

